

公開講座活動報告

法人・団体名 宮崎県母性衛生学会
テーマ (1) 発達障害のピアニストからの手紙
(2) 宮崎における子どもの貧困
講師 (1) 野田あすか氏、野田恭子氏
(2) 高見公子氏 (宮崎日日新聞社文化部 部長)
開催年月日 平成 27 年 10 月 24 日 (土) 13 時 30 分～14 時 45 分
会場 宮崎県立看護大学 高木講堂

講演概要

(1) 発達障害のピアニストからの手紙 (野田あすか氏、恭子氏)

前半は、DVD 映像による野田あすか氏と彼女を取り巻く家族、出会った恩師など、約 15 分間の紹介があった。次に、母親の立場から恭子氏があすか氏のこれまでの生い立ちや家族の思いを話された。両親と兄の 4 人家族の長女として出生。2 歳から家のオルガンで遊びはじめ、ピアノの道へ進んだが、大学で他人とうまく付き合うことができず、退学。その後短大に入り直しウィーンへ留学したが、そこで広汎性発達障害と診断された。子どもの頃から悩んでいた原因が分かり、本人は気が楽になった、という。好きなピアノを弾き続け、「国際障害者ピアノフェスティバル」で銀メダルとオリジナル作品賞、芸術賞を受賞した。また宮崎日日新聞社主催のピアノコンクールでも優勝し、そのとき取材を受けた高見公子氏と知り合った。今のあすか氏の夢は、2020 年に開催されるパラリンピックでピアノ演奏すること、と話された。

後半は、あすか氏のピアノ演奏があり、「カッチーニのアベマリア」「手紙-小さい頃の私へ」「幻想曲さくらさくら」「愛燦々」「愛のワルツ」が演奏された。障害を持つ方々も花束を持って駆けつけ、アンコール演奏も行われ、大変盛況であった。

(2) 宮崎における子どもの貧困 (高見公子氏)

近年、日本における子どもの貧困が社会問題となってきた。宮崎における子どもの

貧困の現状を取り上げ、鋭く切り込んだ宮崎日日新聞連載記事(2014年1～11月掲載)、「だれも知らない～みやざき子どもの貧困」は、多くの県民から反響があった。高見氏はこの記事の担当デスクを務めた。講演の中で、氏は実際に取材した事例や苦勞などを話され、学習支援に取り組んでいる県内のある地域の地道な活動や、学生のボランティアなどを紹介された。子どもの貧困を減らすためには、ひとりひとりが勇気を出して、おせっかいと思われるくらい声をかけること、無関心であることがいけないこと、を話された。

